

山口県助産師職能委員会 研修報告



平成27年8月9日（日）、山口県看護研修会館において、第2回新人助産師研修・公開講座「CTG モニタリング判読」が開催されました。

クリニカルラダーレベルⅢ認証申請が始まり、分娩時のモニタリングに関する研修が必須研修となっていることもあり、助産師57名、看護師2名、准看護師2名、新人助産師13名と多くの方が参加されました。

講師は、東邦大学医療センター大森病院産婦人科教授の中田雅彦先生を、お迎えしました。

講義はCTGとは、ことばの意味から始まりました。CTGを読む。これが一番大切で読む＝解釈するというレベルに達しないといけない。CTGを見た時「胎児がどのような状態である」と解釈できるか、異常波形が出現したときに胎児の状態を推察しながら判読できるか、よく解らない波形が出たら、誰かに連絡すればよいのではなく自分で解釈が出来る能力を身につけることが大切である。

また、「元気に生まれてよかったね」で終わるのではなく、分娩後にCTGの波形と児の出生時の状態、臍帯血ガス分析の結果を照らし合わせて評価することが大切である。評価（レビュー）することで、CTGが胎児のどういう状態を反映していたのか知る事になるので、助産師が自分たちで出来る事だし、やらないといけない。と言われました。CTGの判読については、波形の機序や、なぜその波形が胎児にとって問題なのか、詳しく説明され、具体的に事例の解説をされました。参加者にマイクを渡し事例の判定をしてもらい、即・実践、と少し緊張した研修でもありました。



中田先生のご希望で、参加者全員で写真を撮りました

平成27年8月 山口県看護協会助産師職能委員会